

【第5回新型コロナウイルス感染症対策会議】

R2.3.12 PM1:45～

5F 第1委員会室

出席者；金井会長、湯澤・神田副会長

廣澤・水谷・松本・徳竹・丸木・登坂・松山・長又・桃木常任理事
県行政（保健医療部 河原塚副部長 矢萩医療整備課副課長）

金井会長

本日5回目となる。3月9日に埼玉県主催で埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議があった。

【河原塚 保健医療部副部長】（専門家会議の概要）

・PCR検査関係

医師の判断の基準を明確化する。行政検査で衛研が実施するものと行政検査だが民間で実施するものの区別を明確にする。早急に示したい。

・医療体制について

厚労省では、全面的に拡大した場合の入院者や外来人数等の推計の計算方法を示したが、拡大した場合には、重篤な患者を優先的に入院させるほかないと思われる。そのイメージをつかむためには、全国の推計よりも、県単位、2次医療圏単位、市町村単位で示すことも一つの案ではないかという意見があった。

・ハイリスク者への対応

各地域で、妊産婦やがん患者、透析患者等をそれぞれ専門に扱う医療機関を選定してもらう必要がある。

・感染拡大防止について

家庭内感染については家の中に高リスク者がいるかどうかが重要である。環境感染症学会のガイドブック等を参考にしたら良いのではないかとこの意見があった。

・学校の自粛の関係

児童生徒が常に家にいるよりも校庭等を開放し、ある程度距離を保ち、スポーツ等をすることは良いのではないか。その後、密集して何かを行うことは問題である。イベント等も密集した場所が問題となる。まず、体調の悪い方が参加しないことが重

要である。

- ・フェーズ移行のタイミング

全国一律でないと思う。埼玉県では、まだ患者が追えている状態である。新型インフルの時の状況とは異なっている。

- ・その他

マスク等医療資源の支援をお願いしたい。

サポートセンター等、電話での交通整理は重要なので、重視していただきたい。

金井会長

交通整理は是非とも必要である。県では、サポートセンターの回線を一つ増設することとしている。県内でパンデミック状態になるまでは、サポートセンターを続けていただく。

桃木常任理事

サポートセンターで対応いただく方は医療関係者をお願いしたい。

湯澤副会長

CTをどこで撮るかが問題となる。

河原塚副部長

CTでなくX線でも、影があり、感染症があり、微熱があり、血液検査像でウイルス感染が疑われ、咳がでる状態であれば受けている。

長又常任理事

熊谷市は熊谷版の帰国者・接触者外来を決定した。今後、医師が送る場合の基準を作成し、医師が送った場合は断らないこととする。明らかに不適切なものは断っていただく。その基準を今週中に作成する予定である。

金井会長

来週早い段階で熊谷市のものを参考にし、検討したい。